【報告】

第１１回　日本禁煙科学会　学術総会　ｉｎ　京都

第１１回　日本禁煙科学会　学術総会　ｉｎ　京都

◆テーマ

禁煙科学の10年：新たな歴史と価値の創造に向けて

◆開催日・開催地等

開催日：2016年(平成28年)10月29日(土)-30日(日)

開催地：京都府京都市

会　場：京都大学　医学部　芝蘭会館

（〒606-8317 京都府京都市左京区吉田近衛町）

◆総会会長

中山　健夫（京都大学　医学部　健康情報学　教授）

◆主催

日本禁煙科学会

◆後援

健康日本21推進全国連絡協議会

◆主たるプログラム

特別講演、教育講演、シンポジウム、分科会、一般演題

【ＵＲＬ】

◆第１１回　日本禁煙科学会　学術総会のページ

http://jascs11th.kenkyuukai.jp/about/

◆第１１回　日本禁煙科学会　学術総会　プログラム・抄録集

※「禁煙科学２０１６」のページからダウンロードして下さい。

http://www.jascs.jp/kinen_kagaku/kinen_kagaku_2016.html

【学術総会会長挨拶】

第11回日本禁煙科学会学術総会
会長　中山 健夫
京都大学大学院医学研究科
社会健康医学系専攻健康情報学分野

この度、第11回日本禁煙科学会学術総会を京都大学で開催させて頂くことになりました。本学術総会では、「禁煙科学の10年：新たな歴史と価値の創造に向けて」をテーマと致しました。

2000年の「健康日本21」、2003年の「健康増進法」施行、そして2006年の本学会発足後の10年、禁煙科学の進歩はまさに目覚ましいものでした。能動喫煙はもちろん、受動喫煙・環境喫煙も、がんや循環器疾患はじめ多くの疾病のリスクを高めるという疫学的事実は確立し、バレニクリン、ニコチンガム、ニコチンパッチはエビデンスに基づく薬物療法として多くの方々の禁煙の成功を後押ししています。いくつかの行動療法の有効性も支持され、薬物との併用で禁煙の成功率をさらに高めています。

多くの科学的エビデンスや成功事例に勇気づけられる一方、喫煙には、価格政策、広告規制、青少年の喫煙防止、禁煙無関心者への行動変容介入、そして社会格差や貧困との絡まりなど、様々な難題が残されていることも事実です。このような課題に取り組むには、適切な学術研究に基づき、そしてそこだけに留まらない、社会的な取り組み、社会を変えていく取り組み、そのための新たな価値創造が必要です。

第1回総会が京都大学で開催されて後、学会は時代と共に着実に成長してきました。2回目の京都大学での開催にあたり、この10年の禁煙科学の歴史を振り返ると共に、これからの禁煙科学の役割と課題、新たな可能性を皆様と展望したいと願っております。

それでは秋の京都で、皆さまとお目にかかれることを楽しみにしております

【学　会　賞】

◇受 賞 者：吉田修氏

◇受賞理由：喫煙と膀胱がんの研究および日本における禁煙科学の普及

【学歴・職歴】(1935年３月１日生まれ)

１９６０年　京都大学医学部卒業
１９６３年　ウィスコンシン大学客員研究員
１９７３年　京都大学医学部（泌尿器科学講座）教授
１９９３年　京都大学医学部附属病院院長
１９９７年　京都大学名誉教授
１９９７年　東亜大学大学院長
１９９９年　日本赤十字社和歌山医療センター　病院長
２００１年　奈良県立医科大学学長
２００８年　iPS アカデミアジャパン株式会社　社長
２０１１年　天理医療大学学長

【学会関連】

日本泌尿器科学会名誉会員（元会長、元理事長）、日本癌学会名誉会員、
日本癌治療学会名誉会員（元会長）、日本医学教育学会名誉会員（元会長）、日本禁煙科学会名誉理事長等

【受賞歴】

１９８５年　高松宮妃癌研究基金学術賞
１９９７年　紫綬褒章
２００９年　医学教育賞（牛場賞）
２００９年　Felix Guyon Medal（国際泌尿器科学会）
２０１１年　瑞宝中綬章

【盛会御礼】

日本禁煙科学会理事長　高橋裕子

10月29日、30日に開催されました第11回日本禁煙科学会学術総会は、京都大学中山健夫会長のもと、京都大学医学部芝蘭会館にて350人を超えるみなさまにご参集いただき、盛大に終了しましたことを感謝とともにご報告申し上げます。

天候にも恵まれましたし、場所も良かったと思います。 内容の充実度もきわだったものでした。

中山健夫会長のご講演と川村孝教授のご講演、二つの疫学面からのご講演は非常にわかりやすく、研究にたずさわっていない会員のみなさまにも、疫学や統計がずっと身近なものと感じられたことと思います。また肺移植で高名な伊達教授からは、現在の輝かしい成果とともに肺移植の発展の歴史の中にある涙なしでは聞けないエピソードの数々もご紹介いただき、移植医療の発展を願わずにいられない内容でした。

一般演題発表と各分科会においても、非常にレベルの高い実践的な発表が相次ぎ、まさに「禁煙科学の10年」にふさわしい学術総会としていただきました。和気あいあいとした中に、学びの多い学術総会としてくださいましたことを参加くださったお一人一人に感謝申し上げます。

また皆様と学術総会でお会いできますことを楽しみにしています。